シリーズ 第92回

美作の民権運動の主導者 中島衛③

中島衛の民衆への思いは、郡書記を務めていた頃から自由民権思想へと結びつきます。明治十一年（一八七八）四月、立石岐ら豪農層が発起人となり、「事理を討論し、疑義を控問」して国家に貢献する行動を起こすことを目的とした共之社という組織を設立します。これが美作における民権運動の出発点と言われています。その行動の第一として私立養蚕伝習所を設立し、養蚕の普及に努めました。十一月には共之社が経営する教育機関「共之学舎」を設立、衛が幹事長に就任しています。このように同じ志を持つ者達が集まって地域の産業・教育の振興に努めることで、新たな可能性を見出したことが郡書記を辞職し、県会議員への立候補に繋がったのでしょう。

中島衛の墓（香々美）

衛が県会議員になる直前、県内で国会開設運動が起こると、美作では郷党親睦会が中心となり国会開設請願同盟を結成、明治十四年（一八八一）二月に美作同盟会へと発展します。衛は中心メンバーとして、機関紙『美作雑誌』の刊行や美作同盟会の拡充を図るための組織である美作親睦会の集会等の主催・運営に私財を投じて尽力します。

中島衛の顕彰碑（香々美）

そして明治十四年十月、十年後に国会を開設するという勅諭が出されると、中央では板垣退助が自由党を結成して党首となります。これに呼応して美作地域でも明治十五年三月の第三回美作親睦会の席上で立石岐から自由党美作部の結成が発表され、四月に結成、五月には自由党美作地方本部と改称し、党員数五十一名を数えます。さらに八月には美作自由党と改称し、美作の民権運動は発展の途についたかのように見えますが、この頃から活動も鈍くなってきます。国会開設が約束されたことで、大きな目標が失われたことが原因とされていますが、政府の財政政策（松方デフレ）の影響で農産物の価格が下落し、農村が窮乏したことも影響したでしょう。明治十四年に立石岐らと出資して設立した二宮製糸会社も赤字・負債を抱えて明治十七年（一八八四）に倒産すると、同志であった岐も美作の地を離れ、故郷の船穂村（浅口市）に帰ってしまいます。そして衛も、同年三月に胸膜炎を発症し、翌明治十八年七月八日、四十三歳の若さでその生涯を閉じました。

鏡野郷土博物館の中島衛展示コーナー

岐の帰郷と衛の死によって、美作の民権運動の火は消えてしまいますが、衛が生前願っていた国会開設は明治二十三年（一八九〇）に実現し、このことを記念して翌年、美作親睦会の同志達が発起人となり、衛の顕彰碑が建設されました。碑の撰文は衆議院議員で、閑谷学校の経営に尽力したことで知られる西毅一（薇山）によるもので、九月五日に建碑祭が行われました。

中央から遠く離れた美作の地で、一時的ながらも花開いた民権運動に衛が大きく関わった背景には、父・多右衛門や鞍懸寅二郎らの薫陶を受けたことや、大庄屋や戸長を経験することで民情を把握できたこと、そして立石岐ら多くの同志に恵まれるなど、様々な要因があったと思われますが、常に民衆の立場に立ったその一貫した姿勢こそが人々や地域を動かす原動力になったのかもしれません。

参考資料：『鏡野町史』「美作の民権家・中島衛について」「中島家文書」

生涯学習課　日下
電話(0868)54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/